

パラアスリートのパフォーマンス評価

アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン 第7章 2 434～444ページ

提言

- さまざまな障がいのある競技者（パラアスリート）のパフォーマンス評価において、第一に個人のもつ現在の障がいなどの特性と、発達・成長過程やスポーツ実施などのヒストリー（履歴）を事前に把握することが必要である。そして、それら障がいの評価とフィジカル、スキル、メンタルなどの競技に関する専門的な測定の結果を、それぞれの専門家やNFスタッフが連携して総合的に評価することで、パラアスリートの将来性や競技適性を、指導者やコーチらがより正確に推測することにつながる。また、障がいや補装具などの機材の影響の少ない、定量的な評価項目と基準値の設定を積極的に行うことが重要となる。

課題 パラアスリートのパフォーマンス評価を考えるうえでのポイント

- ①「障がい」：種別、程度、残存機能、運動制限やリスク、原因や付随する基礎疾患、補装具など、それぞれの障がいに関する要素をパラアスリート・指導者・コーチらが整理・把握することが前提となる。
- ②パラアスリートのアスリート育成パスウェイ：パラアスリートのアスリート育成パスウェイを構成する1) アスリート要因、2) 環境要因、3) システム要因、4) チャンスの要因、に障がい関連の要因が複雑に作用し合っており、その共通性と独自性から生じる多様な特徴や課題について、全体的視点から俯瞰する必要がある。

実践方法 パラアスリートの評価するうえでの観点

パラアスリートのパフォーマンスは、以下の観点から総合的に評価することが望まれる。

- ①パラアスリートの現在の状態：障がい特性や競技専門的観点
 - ・どのような残存機能があり、運動が可能であるか。
 - ・その障がいにおける運動の制限やリスクはどのようなものがあるか。
 - ・フィジカル、スキル、メンタルなど
- ②パラアスリートのヒストリー：発達・成長過程やスポーツ実施など
 - ・どのような地域、文化のなかで障がいや運動・スポーツの経験を歩んできたか。
 - （どのようにその障がいを受障したか、スポーツを開始したのか、など）

実践方法 パラスポーツの開始段階を理解する

- ①障がいのヒストリーを把握する
 - ・どのように受障した（障がいをもつようになった）のか：先天性／後天性
 - ・発達段階と特徴を踏まえ、どの時期にどのような障がいをもっていたのかを把握し、身体・心理両面の発達や成長への影響を考慮する。
- ②パラスポーツの開始パターンと特徴を理解する
 - ・受障とスポーツ開始のタイミング、競技転向、健常の競技の実施経験など
- ③クラス分けを把握する
 - ・障がいにより参加できるパラリンピック実施競技・種目は異なる。
 - ・クラスにより求められる競技レベルは異なる。

実践方法 開始段階のパラアスリートの評価

パラスポーツの開始段階でのパラアスリートのパフォーマンス評価は、競技選択やその後のパラアスリートとしての活躍に大きく影響を与えるものであり、以下のポイントが鍵となる。

- ①障がい要因と競技専門的な観点の評価と連携
 - ・競技やスポーツ科学的知識をもつ専門家と、障がいやクラス分けシステムを競技横断的に深く理解しているNFスタッフとが連携した適性評価を実施する。
- ②適切な測定項目の設定
 - ・障がいや補装具の性能などの影響をできるだけ受けない、定量的な測定項目を設定する。
 - ・定量の難しい観点は、定性的な評価項目の設定や、経験則にもとづくコーチなどの専門的な眼も取り入れた評価を組み合わせる。
- ③簡便でコストを抑えたプログラムの設計
 - ・幅広く継続的に実施できるプログラムが開始／発掘段階では求められる。

実践方法 ハイパフォーマンスレベルのパラアスリートのパフォーマンス評価

ハイパフォーマンスレベルのパラアスリートのパフォーマンス評価を実施するうえでの考え方は、基本的にオリンピック競技、パラリンピック競技で違いはない。

- ①医・科学的な知見をもとに、競技専門性を考慮して測定や分析方法などを設定する。
- ②ただし、障がいおよび目的に合わせて測定項目やプロトコルの修正や再設定を行う。